

藤澤鋼板

厚物スリッター改造

生産性・寸法精度を向上

有力コイルセンターの藤澤鋼板(本社・千葉県浦安市鉄鋼通り、藤澤鐵雄社長)は今期(2018年6月期)、スリッターラインを改造し、生産性や寸法精度の向上を図る。2台のカッタースタンドのうち、油圧拡張型(HESタイプ)のスタンドを全面更新する。足元は建築や自動車向けなどが堅調で、稼働率も上昇傾向にある。さらなる受注増に応えられる体制を整えるとともに、早めの老朽化対策で中長期的に安定した生産基盤を確立する狙いだ。



藤澤社長

HESスタンド全面更新

改造するのは板厚最大6・5mmに対応する「Sー」ライン。今秋から製作に取り掛かる「Sー」ライン。同ラインはスペーサーで刃を固定する従来の2種類のスタンドを備

改造するのは板厚最大6・5mmに対応する「Sー」ライン。今秋から製作に取り掛かる「Sー」ライン。同ラインはスペーサーで刃を固定する従来の2種類のスタンドを備

える。HESタイプの設置時期が古いため、近年は従来型を多用していたが、ここに至り、受注量が回復傾向にあるのに加え、HESタイプは刃組み作業が容易で小ロット対応に優れることから、顧客の利便性向上の観点から更新を決めた。

前6月期は加工量が月間約7000ト程度

で推移するなど、堅調な水準を保った。ただし内訳で見ると、大型レバラーラインが全体の稼働率を押し上げており、市況上昇に伴う定尺販売の増加も寄与していた。

足元はスリッターや子会社のベストスチールのシャーリング加工も受注が伸びており、藤澤社長は「実需が動き出しつつある」と期待する。前期にはレバラーラインを改造し、ハイテン対応を拡充するなど、品質向上につなげており、今回のスリッター改造と合わせ、これから本格化が見込まれる「東京五輪・パラリンピック需要の捕捉にも生かしていきたい」と(同)考え。